特別講演　4

歴史上の人物における高機能自閉症・アスペルガー症候群

内山 登紀夫（よこはま発達クリニック）

1943年にアメリカの児童精神科医のレオ・カナーが早期乳幼児自閉症を、1944年にオーストリアの小児科医のハンス・アスペルガーが今日アスペルガー症候群と呼ばれる症候群を発表したのは60年以上前になる。しかし自閉症やアスペルガー症候群の特性を示す人々がはるか以前に存在していたと考えられる。ヨーロッパでは妖精によって取り替えられた子どもの神話、13世紀のフランシスカ・ジネプロ修道士の伝説、18世紀末にフランスの医師イタールの報告で有名な少年ビクトール（アヴェロンの野生児）、唐末の禅僧蜆子などは自閉症スペクトラムが強く疑われる。自閉症スペクトラムは人類の歴史とともにあった。

さらに過去の偉大な科学者や芸術家に自閉症スペクトラムの人がいることが示唆されてきており、その特異な才能を生かして人類に多大な貢献をしてきた。もっとも有名なのはテンプル・グランディン博士だろう。彼女は動物学が専門でコロラド州立大学の助教授をしており、動物舎の設計者として専門家の間で高く評価されている。現在は専門家としての活動に加え、自閉症の啓発者としても世界中で活躍している。

精神医学的に最も詳しい病跡学的研究があるのはオーストリアの数学者・哲学者のルードヴィッヒ・ヴィットゲンシュタインである。ヴィットゲンシュタインの家系には「奇妙な性格」と気分障害、そして音楽の才能豊かな人々が輩出した。ルードヴィッヒの4人の兄弟のうち2人は自殺している。兄のパウルは戦傷で右手を切断し左手だけでピアニストとして活動した。ラベルの「左手のためのピアノ協奏曲」はパウルのために作曲された。作曲家のエリック・サティ、画家のワシリー・カンディンスキー、ピアニストのグレン・グールド、交流システムの発明者ニコラ・テスラなどが自閉症スペクトラムの特性を明らかにもっている天才たちである。彼らの自閉症特性と偉大な創造との関係を検討する。

【年次集会事務局からのヒトコト】

内山先生は自閉症スペクトラム臨床の第一人者で、臨床、研究、一般・専門職への講演・セミナーなど子供達のために多方面で奮闘中です。自閉症を先生ならではの斬新かつ愛情のこもった切り口で照らし出してくれることでしょう。お見逃しなく！